

平成21年度学校評価委員会の報告及び次年度への課題

1. 実施日時 平成22年2月23日(火)実施 18:15 大教室
2. 参加者 PTA会長・PTA副会長(2名)・各学年PTA副委員長(6名)
生徒会会長・副会長他(5名)・校長・教頭・各部長(6名)

◎ 全体的な評価として

- ア 前年度より少しではあるが評価は高くなった。
- イ 保護者・生徒の評価と教員の評価との間にはまだ差がみられる。
(授業・PTA行事・校内美化・心身の健康・豊かな心の育成 等)
- ウ 学年による差はあまりみられないが、学科・コースにより評価の異なる点がある。
(授業・校内美化・家庭への情報提供・豊かな心の育成 等)
- エ 保護者・生徒・教員の三者とも評価の低かった点は「家庭への情報提供」
- オ 先生方は生徒のことについて、比較的一生懸命指導してくれるとの評価。

① 授業について

- 【部長】 教員はわかりやすく工夫しているという評価と生徒の評価とは差がある。
- 【生徒】 先生によるが、授業がわかりやすくなったと感じる。
自分自身の成長とともに、授業の工夫が感じられる。

② 進路について

- 【部長】 就職の方で厳しい状況であったため、進路希望達成ができない複数生徒の存在から評価が下がったと思われる。
- 【保護者】 進路指導が手薄いとは思わない。他の公立・私立より手厚い指導がある。
希望通りとはなかなかいかないが、個別に指導があり、感謝している。
自分の子供に本当に手厚く指導していただき感謝している。
- 【生徒】 個々のアドバイスが担任よりあり、希望達成のための課題が見つかった。

③④ 生徒会行事・部活動等について

- 【部長】 前年度より評価は上がっている。充実感を持って活動している生徒が多い反面、率では高くはないが高校生活に充実感を持っていない生徒がいるため、きめ細やかな指導が必要である。
- 【生徒】 特進は3年で学園祭に参加できないため、評価が低いのではないか。
自分の所属する部は監督の指導も含め、意欲的に活動している。
- 【保護者】 行事等について、クラスの中で積極的でない生徒が一人でもいると、子供は「気まずさを感じた」と言っている。

⑤ 服装・頭髪指導について

- 【部長】 親と教師の積極的な声かけで評価は高まっている。生徒は「うるさい」という思いも含めてかなり厳しく指導されていると感じているようだ。
- 【保護者】 登下校の生徒の姿を見ると、多少なりと落ち着いてきたと感じる。
対外的なことを考えると、厳しくして当たり前、努力評価が高いのは望ましいことだ。

⑥⑦ 遅刻指導・マナー向上について

- 【部長】 遅刻指導・マナーアップ向上の両方とも、前年度より非常に高い評価が得られた。しかしながら、まだ否定的にとらえている生徒もおり、指導の改善が必要と思われる。
- 【生徒】 クラスに平気で遅刻してくる生徒がいる。本人も先生方も慣れっこになってはいけないと思う。
- 【校長】 日中の遅刻登校は、地域の評価も良くないので対応が必要である。

⑧ PTA行事への保護者の積極的な参加について

- 【部長】 前年度より評価は高くなったが、教員の更なる努力・工夫があれば、もっと保護者の参加・協力が得られると思う。
- 【保護者】 「私学助成」等、本年度役員をやり、様々な参加要請があった。

⑨⑩ 校内美化及び心身の健康について

- 【部長】 保護者及び生徒の全体的評価は前年度より高くなっているが、商業科において評価が低い。
- 【生徒】 やって当たり前という感覚と先生方の手厚く指導しているという思いの違いか。今年度は新型インフルエンザの流行で、大きな動きがみられた。
- 【保護者】 学校から物品を借り、返却する時、クラブハウスの部屋が異常に汚れていて乱雑であった。他校の保護者に対しても恥ずかしかった。校門の花壇は非常にきれいだったのに、残念である。

⑪ いじめなどない安心して通える学校について

- 【部長】 前年度と比較し、生徒評価が最も上昇した項目である。しかし、中には評価の低い生徒がおり、自分がいじめの渦中にいるか、周囲でのいじめの可能性もある。今後よりきめ細やかな指導が必要である。保護者についても同様で、いじめの相談を受けたり、話しを聞いている可能性があり、限りなくいじめゼロに近づけていかなければならない課題と真摯に受けとめなければならない。
- 【生徒】 昨年、友人からいじめの相談を受けたが、今年は解決できたようだ。項目の内容で、「0わからない」と評価した人をどうとらえたら良いのか？
来年度は生徒一人ひとりが意識して、いじめ問題に取り組んでいきたい。
- 【保護者】 「いじめ」問題は学校の対応の仕方にも、解決の大きな要因になる。
いじめは潜伏すると解決できなくなる。何があったか表面にだすことにより解決につながると思う。本人が厭がったり、いじめと思えば「いじめの行為」であると思う。現状は、ネット上での悪質な厭がらせ等、なかなか表面には出てこない場合がある。
保護者や地域も含めて、一緒に見つめていくことも大切である。

⑫⑬ 家庭での話題提供及び豊かな心を持った生徒の育成について

- 【部長】 前年度より保護者・生徒の評価は上昇しているが、教員の評価は低下している。学年別では1年生が、学科別では商業科の評価が低い。

次年度での取り組み

1. 授業の充実およびわかりやすい授業の更なる追求。
2. 第1学年に対する進路指導の充実。
3. クラスでの取り組み(クラスマッチ・学園祭・体育祭等)の際、クラスメート全員が理解し、協力しあえる指導の強化。
4. 服装・頭髪指導については、対外的な評価を考えれば厳しい指導は当然であり、生徒及び保護者に対する更なる理解・協力を得る必要がある。
5. 遅刻指導では、本人のみならず、先生方も慣れることなく、更なる具体的な指導が必要である。(「遅刻カード」の利用システム再確認及び指導)
6. PTA行事の効果的実施計画及び内容の再検討。
7. 校内の美化運動の徹底(教室・廊下・部室等々)
8. 「いじめ問題」に関する、定期的・具体的な指導の徹底。
(努力でなく取り組みの義務)
9. 家庭等への情報提供のひとつとして、ホームページの充実。
10. 数値化目標と学校評価の比較及び課題の明確化。
11. 学年・学科・コースにより評価の異なる項目についての対策。

- ◎ 教員として、「努力している」だけでは理解されないため、如何に広報・プレゼンテーションするかも重要である。ただし、指導内容の充実という前提・実績があつてのことである。